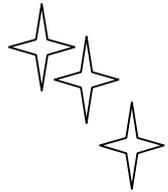
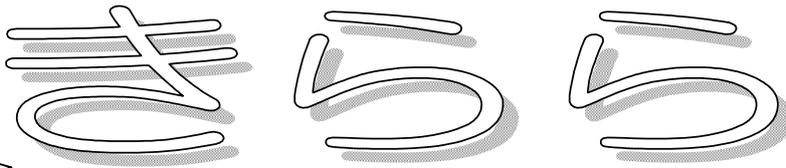
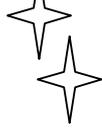


葦山南小学校  
学校だより



令和6年 1月25日(木) 第10号



## 二か月後のゴールに向けて！

校長 植松 研吾

1月9日の3学期始業式で、子供たちに次のような話をしました。(抜粋)



今年<sup>たつどし</sup>は辰年ですが、皆さんは何年<sup>なにどし</sup>生まれでしょうか。

(十二支の動物名を紹介した後) これらの動物を十二支と呼びます。五番目の辰は、十二支の中でただ一つの空想上の動物です。昔話には出てきますが、本当はどこにもいない動物です。別の呼び方では「りゅう」、英語では「ドラゴン」ですね。

地球には数え切れないくらい多くの動物が棲んでいます。人間のように言葉を使う動物もいれば、鳴き声を使う動物もいますね。先ほどお話した十二支の動物は、多分鳴き声を使っていると思います。いつの日か、人間と他の動物が話せる日が来るかもしれません。ぜひ、皆さんも、そのような大きな夢をもってください。

皆さんは、4月から新しい学年に上がり、6年生は中学生ですね。今の教室に勉強のやり残しをしないで、下の学年に今の学年をきちんと譲ってください。健康に気を付けて、自分のめあてをもって勉強も運動もしっかりと頑張りましょう。3学期は、パワーアップした「ともに高め合う きららの子」を目指してください。

この話の後、私は高学年の子供たちに「たつ」を用いた今年の目標を立ててほしいと思いました。小学校の学年別漢字配当表には「辰」「竜」「龍」はありませんが、送り仮名ありで同じ読み方をする漢字として「立つ」「建つ」「絶つ」「断つ」「裁つ」、送り仮名なしでは「達」があります。小学校の国語では学習しない読み方や難しい使い方もありますが、善し悪しの両方の意味を兼ね備えていると思いました。例として「立つ」を用いた言葉を挙げてみると、◎「優位に立つ」「立つ鳥跡を濁さず」「顔が立つ」「春が立つ」等があり、●「とげが立つ」「角が立つ」「腹が立つ」「波風が立つ」等があります。全くの私見ではありますが、日本語の奥深さを感じました。

さて、子供たちはどの「たつ」を選ぶのでしょうか。「人の役に立つ」「悪いと思うことを断つ」「目標達成」といった前向きな言葉を選んでくれることを切に願っております。また、「立つ」には「出発する」という意味もあります。二か月後のゴールの先には、新年度のスタートラインが既に引かれています。

日本では年始に大地震や重大事故等が発生し、心配事の絶えない辰年となりましたが、光り輝くきららの子にとって「災いを絶つ」年にしたいものですね。

(参考)「経つ」を「たつ」と読むことがあります。常用漢字表の訓読みに入っていないので、敢えて記載しませんでした。

